

事 務 連 絡  
令和元年12月26日

各都道府県教育委員会指導事務主管課  
各指定都市教育委員会指導事務主管課  
各都道府県私立学校主管部課  
各国立大学法人附属学校担当課 御中  
各公立大学法人附属学校担当課  
構造改革特別区域法第12条第1項の  
認定を受けた地方公共団体の主管部課  
各国公私立大学入試事務主管部課

文部科学省大臣官房国際課  
文部科学省初等中等教育局教育課程課

国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目における  
学習指導要領の内容事項等の取扱いに係る調査結果について

「国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特例の一部を改正する告示について（通知）」（令和元年12月26日付け文部科学省初等中等教育局長、高等教育局長、大臣官房国際課長連名通知（元文科初第1274号））において、別途事務連絡において示すこととしていた、文部科学省委託事業IB教育推進コンソーシアムにおける調査結果について、別添のとおり取りまとまりましたので送付します。国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校等におかれましては、教育課程の編成に際して参考としていただきますようお願いいたします。

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校である高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）の教育課程の編成に係る内容であることを踏まえ、各都道府県教育委員会におかれては、所管の高等学校及び域内の高等学校を所管する指定都市を除く市町村教育委員会に対して、各指定都市教育委員会におかれては、所管の高等学校に対して、各都道府県知事及び構造改革特別区域法（平成14年法律第189号）第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体の長におかれては、所轄の高等学校及び学校法人等に対して、附属学校を置く各国公立大学長におかれては、その管下の高等学校に対して、このことを周知くださるようお願いいたします。

本件担当：

（IB教育推進コンソーシアムについて）

文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室外国人教育政策係

電話 03-5253-4111（内線3222） FAX 03-6734-3669

（その他本事務連絡に係る事項について）

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室企画係

電話 03-5253-4111（内線2367） FAX 03-6734-3734

令和元年12月26日

IB教育推進コンソーシアム

- ・ 本調査にあたっては、「学習指導要領 - IBカリキュラムの読替えに係る作業部会」をIB教育推進コンソーシアムに設置して、学習指導要領と国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの対応関係及び国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的事項・留意事項について検討を行い、別紙のとおり取りまとめた。作業部会の参加者は参考1に示したとおり。
- ・ 「目標」及び「内容」については、左欄に学習指導要領に記載される項目をすべて示し、右欄に、それに対応する国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの指導の手引き等、国際バカロレア機構から発行されている指導のための文書<sup>\*</sup>に記載されている内容を引用している。  
※対応関係の調査にあたって使用した文書は参考2のとおり。
- ・ 「内容の取扱い」については、左欄に学習集指導要領に記載されるもののうち、対応関係を確保するにあたって必要と考えられる項目の概要を示し、右欄に、それに対応する国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの指導の手引き等、国際バカロレア機構から発行されている指導のための文書<sup>\*</sup>に記載されている内容を引用している。  
※対応関係の調査にあたって使用した文書は参考2のとおり。
- ・ 上記の比較に基づき、両科目の間の対応関係についての確認結果を、赤枠で囲われた部分で示し、さらに、その対応関係を確保するにあたって、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的事項・留意事項がある場合は、標準レベル（SL）、上級レベル（HL）ごとに示している。
- ・ 学習指導要領上の「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」については、科目を超えた幅広い留意事項等を扱っているため、本表では対応関係の比較をしておらず、指導計画の作成や内容の取扱いに当たっては、各自において参照されたい。
- ・ 学習指導要領との対応関係の確保のための国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的事項とされた内容の指導に当たっては、学習指導要領において当該内容に係る「内容の取扱い」に示された事項に留意すること。

【参考1】学習指導要領-I Bカリキュラムの読替えに係る作業部会 名簿

総論担当（全科目担当）

眞砂 和典 岡山理科大学グローバル教育センターセンター長・教授  
赤羽 寿夫 東京学芸大学教育学研究科教授

世界史作業部会

田尻 信壹 目白大学人間学部児童教育学科教授  
西田 浩之 武蔵野大学附属千代田高等学院主事

日本史作業部会

梶 輝行 横浜薬科大学教職課程センター教授  
西田 浩之 武蔵野大学千代田高等学院主事

地理作業部会

中本 和彦 龍谷大学法学部准教授  
野村 佳史 清泉女学院中学高等学校教諭

数学作業部会

西村 圭一 東京学芸大学数学科教育学研究室教授  
大西 洋 市立札幌開成中等教育学校教諭

音楽作業部会

北山 敦康 静岡大学名誉教授  
ケリー・ウィンター 仙台育英学園高等学校教諭

美術作業部会

大坪 圭輔 武蔵野美術大学教職課程教授  
小池 研二 横浜国立大学教育学部教授  
嶽 里永子 東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭

【参考2】本調査において引用した国際バカロレア機構発行文書

- ・ IBの学習者像（令和元年12月25日閲覧）
- ・ プログラムの基準と実践要綱（平成26年6月発行）
- ・ ディプロマプログラム（DP）学問的誠実性（平成26年11月発行）
- ・ 「指導の方法」と「学習の方法」（令和元年11月15日閲覧）
- ・ 「歴史」指導の手引き 2020年第1回試験（平成27年8月発行、平成30年8月最終改訂）
- ・ History guide First examinations 2020（平成27年1月発行、令和元年5月最終改訂）
- ・ 「歴史」教師用参考資料 2017年第1回試験（平成27年8月発行、平成28年3月改訂）
- ・ 「地理」指導の手引き 2019年第1回試験（平成29年8月発行）
- ・ Geography guide First examinations 2019（平成29年2月発行）
- ・ 「数学：解析とアプローチ」指導の手引き 2021年第1回試験（令和元年5月発行）
- ・ 「数学：応用と解釈」指導の手引き 2021年第1回試験（令和元年5月発行）
- ・ 「音楽」指導の手引き 2011年第1回試験（平成28年2月発行）
- ・ 「美術」指導の手引き 2017年第1回試験（平成28年2月発行、平成29年11月改訂）
- ・ Visual arts guide First examinations 2017（平成26年2月発行、平成29年2月改訂）
- ・ 「美術」教師用参考資料 2016年第1回試験（平成28年2月発行、平成29年11月改訂）

高等学校学習指導要領「世界史A」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」の対応関係について

高等学校学習指導要領「世界史A」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)																																													
<b>目標について</b>																																														
<p>(教科目標) ・我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。</p> <p>(科目目標) ・近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき現代の諸課題を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>	<p>1. 「人々の経験と行動」、「物理的、経済的、社会的環境」、「社会制度や文化的慣習の発展とその歴史」について、体系的かつ批判的な学習を奨励する。</p> <p>2. 個人と社会の性質や活動についての理論、概念、議論を認識して、それらを批判的に分析、評価する力を育む。</p> <p>4. 学ぶということは自分たちが属する社会の文化と他の社会の文化の双方に関連するものであるという理解を促す。</p> <p>5. 人々の態度や意見は多様であり、社会の研究にあたってはその多様性を受け入れる必要があるという理解を育む。</p> <p>7. 過去に対する理解と、過去への飽くなき興味を育む。</p> <p>8. 多数のものの見方に触れて、歴史的概念、問題、出来事、発展の複雑さに価値を認めるよう奨励する。</p> <p>9. 複数の地域の歴史を学ぶことにより、国際的な視野を育てる。</p> <p>10. 学問領域としての歴史に対する理解を育み、年代や前後関係の感覚をはじめとする歴史的な意識を育て、歴史に対する異なる視点の理解を育む。</p> <p>12. 過去を考察することにより、自分自身と現代の社会に対する理解を深める。</p>																																													
<b>内容について</b>																																														
<p>(1) 世界史へのいざない ア 自然環境と歴史 イ 日本列島の中の世界の歴史</p> <p>(2) 世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明 イ 結び付く世界と近世の日本</p>	<p>該当なし</p>																																													
<p>ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成</p> <p>エ アジア諸国の変貌と近代の日本</p> <p>(3) 地球社会と日本 ア 急変する人類社会</p> <p>イ 世界戦争と平和</p> <p>ウ 三つの世界と日本の動向</p> <p>エ 地球社会への歩みと課題</p> <p>オ 持続可能な社会への展望</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指定学習項目3: 世界規模の戦争への動き</th> <th>世界史トピック7: 産業化のはじまり、発展とその影響 (1750～2005年)</th> <th>世界史トピック8: 独立運動(1800～2000年)</th> <th>世界史トピック11: 20世紀の戦争の原因と結果</th> <th>世界史トピック12: 冷戦:超大国間の緊張と対立(20世紀)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">↑</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">↑</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">↑</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">↑ ※1931～1941まで</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">↑</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td></td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td></td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">↑</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">↑</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価(歴史研究)</p>	指定学習項目3: 世界規模の戦争への動き	世界史トピック7: 産業化のはじまり、発展とその影響 (1750～2005年)	世界史トピック8: 独立運動(1800～2000年)	世界史トピック11: 20世紀の戦争の原因と結果	世界史トピック12: 冷戦:超大国間の緊張と対立(20世紀)		↑					↑					↑				↑ ※1931～1941まで			↑			↓		↓	↓		↓		↓	↓					↑					↑
指定学習項目3: 世界規模の戦争への動き	世界史トピック7: 産業化のはじまり、発展とその影響 (1750～2005年)	世界史トピック8: 独立運動(1800～2000年)	世界史トピック11: 20世紀の戦争の原因と結果	世界史トピック12: 冷戦:超大国間の緊張と対立(20世紀)																																										
	↑																																													
	↑																																													
	↑																																													
↑ ※1931～1941まで			↑																																											
	↓		↓	↓																																										
	↓		↓	↓																																										
				↑																																										
				↑																																										
<b>内容の取扱いについて(概要)</b>																																														
<p>・1の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成するとともに、各時代における世界と日本を関連付けて扱うこと。また、地理的条件とも関連付けるようにすること。【全体】</p> <p>・年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること。【全体】</p> <p>・単に知識を与えるだけでなく、現代世界が直面する課題について考察させること。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現させることが重要な課題であることを認識させること(3)。</p> <p>・主題を設定して行う学習の実施に当たっては、適切な時間を確保し、年間指導計画の中に位置付けて指導すること。また、主題の設定や資料の選択に際しては、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等に十分配慮して行うこと。内容の(3)の「ア」から「エ」までに示された事項を参考にして主題を設定させること(3)。</p> <p>・客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させるようにすること【近現代史】。</p> <p>・政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養うこと【近現代史】。</p>	<p>ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ DPの「歴史」で使用される主要概念の詳細 変化/連続/原因/結果/重要性/視点</p> <p>スキル 例1: 歴史的根拠の収集と分類 例2: 歴史的根拠の評価 例3: 歴史上の過程が人間の経験や活動や動機とどのような関係にあるかについての認識と理解 例4: 歴史的な思考や情報の整理と表現</p> <p>歴史と国際的な視野 世界のさまざまな地域の状況や事例を研究することがすべての生徒に義務づけられていて、こうした事例の比較を通じて国という枠組みを超えたものの見方がコースにもたらされるようになっていきます。</p> <p>教師用参考資料「DP歴史 指導の方法」より 学習の方法 DPの「歴史」は、DPの他のすべてのコースやIBのすべてのコースと同様、「学習の方法」の5つの主要スキル(思考スキル、コミュニケーションスキル、社会性スキル、リサーチスキル、自己管理スキル)を高めることに重点を置いています。</p> <p>指導の方法 DPの「歴史」は、DPの他のすべてのコースやIBのすべてのコースと同様、IBの教育における重要な価値観と原則を示した6つの「指導の方法」(探究を基本とした指導、概念に重点を置く指導、「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導、効果的なチームワークと協働に基づく指導、すべての生徒のニーズに応じて差別化した指導、評価の情報に基づく指導)によって支えられています。</p>																																													

「世界史A」と「歴史」の間には対応関係があると言えるが、目標、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき事項がある。

**学習指導要領との対応関係の確保のため国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的事項・留意事項(SL, HL共通)**

<p><b>【目標】</b> ・教科目標及び科目目標における「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」という部分については、生徒の多様性にも配慮しながら、学習指導要領解説に詳説されているとおり、「自らが国際社会の形成者であること、また、自らがよって立つ平和で民主的な国家・社会を維持・発展させ」という趣旨をふまえつつ、当該目標を達成できるような授業を実施するよう留意すること。 ・「地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ」という部分については、本科目の指導にあたって、「小・中学校で日本と世界の地理や日本の歴史の学習が行われているという現状や、世界史が引き続き地理歴史科共通の必修科目であることを踏まえ、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解」するような授業を実施するよう留意すること。</p> <p><b>【内容】</b> 学習指導要領との対応関係を求める場合、追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。 (1)世界史へのいざない (2)世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明 イ 結び付く世界と近世の日本 ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成※ エ アジア諸国の変貌と近代の日本※ (3)ア 急変する人類社会※ イ 世界戦争と平和※ ウ 三つの世界と日本の動向※ エ 地球社会への歩みと課題※</p> <p>※指定学習項目において「3:世界規模の戦争への動き」、世界史トピックにおいて、以下の項目から2つを選んだ場合、※で示した内容の一部を取り扱うことが可能。 選択しなかった項目に相当する年代・内容は、学習指導要領との対応関係を求める場合、追加的に取り扱うこと。 指定学習項目は1項目、世界史トピックは2項目を選択。 7:産業化のはじまり、発展とその影響(1750～2005年) 8:独立運動(1800年～2000年) 11:20世紀の戦争の原因と結果 12:冷戦:超大国間の緊張と対立(20世紀)</p> <p><b>【内容の取扱い】</b> ・日本史や地理との関連性を一層重視する観点から、各時代の歴史を日本の歴史や地理的条件と関連付けて扱うよう留意すること。これは、IBの教育における「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導の一環として実施することが可能。</p>
--

高等学校学習指導要領「世界史B」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」の対応関係について

高等学校学習指導要領「世界史B」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)	
<b>目標について</b>		
<p>(教科目標) 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。</p> <p>(科目目標) 世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>	<p>1. 「人々の経験と行動」、「物理的、経済的、社会的環境」、「社会制度や文化的慣習の発展とその歴史」について、体系的かつ批判的な学習を奨励する。</p> <p>2. 個人と社会の性質や活動についての理論、概念、議論を認識して、それらを批判的に分析、評価する力を育む。</p> <p>4. 学ぶということは自分たちが属する社会の文化と他の社会の文化の双方に関連するものであるという理解を促す。</p> <p>5. 人々の態度や意見は多様であり、社会の研究にあたってはその多様性を受け入れる必要があるという理解を育む。</p> <p>7. 過去に対する理解と、過去への飽くなき興味を育む。</p> <p>8. 多数のものの見方に触れて、歴史的な概念、問題、出来事、発展の複雑さに価値を認めるよう奨励する。</p> <p>9. 複数の地域の歴史を学ぶことにより、国際的な視野を育てる。</p> <p>10. 学問領域としての歴史に対する理解を育み、年代や前後関係の感覚をはじめとする歴史的な意識を育て、歴史に対する異なる視点の理解を育む。</p> <p>12. 過去を考察することにより、自分自身と現代の社会に対する理解を深める。</p>	
<b>内容について</b>		
	SL, HL共通項目	HL選択項目
(1) 世界史への扉 (2) 諸地域世界の形成	該当なし	
(3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界	世界史トピック1: 社会と経済(750~1400年) 世界史トピック2: 戦争の原因と結果(750~1500年) 世界史トピック3: 王朝と支配者(750~1500年)	別紙参照 ※HL選択項目は、3項目を選んで履修することに留意
(4) 諸地域世界の結合と変容 ア アジア諸地域の繁栄と日本 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界	世界史トピック4: 過渡期の社会(1400~1700年) 世界史トピック5: 近世の国家(1450~1789年) 世界史トピック6: 近世の戦争の原因と結果(1500~1750年)	
ウ 産業社会と国民国家の形成 エ 世界市場の形成と日本	世界史トピック7: 産業化のはじまり、発展とその影響(1750~2005年) 世界史トピック8: 独立運動(1800~2000年)	
(5) 地球世界の到来 ア 帝国主義と社会の変容 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 ウ 米ソ冷戦と第三世界 エ グローバル化した世界と日本	指定学習項目3: 世界規模の戦争への動き ※学習指導要領との対応関係を求める場合、指定学習項目3を選択することが奨励される。この際、指定学習項目は5項目中1項目を選んで履修するとされていることに留意。 <p>世界史トピック7: 産業化のはじまり、発展とその影響(1750~2005年) 世界史トピック8: 独立運動(1800~2000年) 世界史トピック11: 20世紀の戦争の原因と結果 世界史トピック12: 冷戦: 超大国間の緊張と対立(20世紀) ※世界史トピックは12項目中2項目を選んで履修することに留意。</p>	
(3)エ 空間軸からみる諸地域世界 (4)オ 資料からよみとく歴史の世界 (5)オ 資料を活用して探究する地球世界の課題	ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ スキル 例1: 歴史的根拠の収集と分類 例2: 歴史的根拠の評価 例3: 歴史上の過程が人間の経験や活動や動機とどのような関係にあるかについての認識と理解 例4: 歴史的な思考や情報の整理と表現	
<b>内容の取扱いについて(概要)</b>		
<p>・基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成するとともに、各時代における世界と日本を関連付けて扱うこと【全体】。日本と関連する諸国の歴史については、当該国の歴史から見た日本などにも着目させ、世界の歴史における日本の位置付けを明確にすること【近現代史】。また、地理的条件とも関連付けるようにすること【全体】。</p> <p>・年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること【全体】。年表や地図その他の資料を活用して説明するなどの活動を取り入れること【(2)エ、(3)エ】。文字資料に加えて、絵画、風刺画、写真などの画像資料を取り入れるよう工夫すること【(4)オ】。</p> <p>・各地域世界の人々の生活、宗教、意識などを具体的に把握できるようにし、政治史のみの学習にならないようにすること【(2)、(3)】。政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的な事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養うこと【近現代史】。</p> <p>・単に知識を与えるだけでなく、地球世界の課題について考察させること。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現させることが重要な課題であることを認識させること【(5)】。</p> <p>・客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させるようにすること【近現代史】。</p> <p>・各国史別の扱いにならないよう、広い視野から世界の動きをとらえさせるようにすること【近現代史】。</p>	<p>ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ DPの「歴史」で使用する主要概念の詳細 変化/連続/原因/結果/重要性/視点</p> <p>スキル 例1: 歴史的根拠の収集と分類 例2: 歴史的根拠の評価 例3: 歴史上の過程が人間の経験や活動や動機とどのような関係にあるかについての認識と理解 例4: 歴史的な思考や情報の整理と表現</p> <p>歴史と国際的な視野 世界のさまざまな地域の状況や事例を研究することがすべての生徒に義務づけられていて、こうした事例の比較を通じて国という枠組みを超えたものの見方がコースにもたらされるようになっています。</p> <p>教師用参考資料「DP ヒストリー指導の方法」より 学習の方法 DPの「歴史」は、DPの他のすべてのコースやIBのすべてのコースと同様、「学習の方法」の5つの主要スキル(思考スキル、コミュニケーションスキル、社会性スキル、リサーチスキル、自己管理スキル)を高めることに重点を置いています。</p> <p>指導の方法 DPの「歴史」は、DPの他のすべてのコースやIBのすべてのコースと同様、IBの教育における重要な価値観と原則を示した6つの「指導の方法」(探究を基本とした指導、概念に重点を置く指導、「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導、効果的なチームワークと協働に基づく指導、すべての生徒のニーズに応じて差別化した指導、評価の情報に基づく指導)によって支えられています。</p>	

「世界史B」と「歴史」の間には対応関係があるといえるが、目標、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき事項がある。

学習指導要領との対応関係の確保のために国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的・留意事項(SL, HL共通)

標準レベル(SL)	上級レベル(HL)
<p>【目標】 教科目標及び科目目標における「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」という部分については、生徒の多様性にも配慮しながら、学習指導要領解説に詳説されているとおり、「自らが国際社会の形成者であること、また、自らがよって立つ平和で民主的な国家・社会を維持・発展させる」という趣旨をふまえつつ、当該目標を達成できるような授業を実施するよう留意すること。</p> <p>・「地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ」という部分については、本科目の履修にあたっては、「小・中学校で日本と世界の地理や日本の歴史の学習が行われているという現状や、世界史が引き続き地理歴史科共通の必修科目であることを踏まえ、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解」するような授業を実施するよう留意すること。</p>	<p>【内容】 学習指導要領との対応関係を求める場合、追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。</p> <p>(1) 世界史への扉 (2) 諸地域世界の形成 (3) 諸地域世界の交流と再編<sup>※1</sup> (4) 諸地域世界の結合と変容<sup>※1</sup> (5) 地球世界の到来 ア 帝国主義と社会の変容<sup>※2</sup> イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現<sup>※2</sup> ウ 米ソ冷戦と第三世界<sup>※2</sup> エ グローバル化した世界と日本<sup>※2</sup></p> <p>※1 選択したHL選択項目3項目で履修できない範囲を追加的に取り扱う。 ※2 選択した世界史トピック2項目で履修できない範囲を追加的に取り扱う。</p>
<p>【内容の取扱い】 ・各時代における世界と日本を関連付けて扱うこと。また、地理的条件とも関連付けるようにすること。【全体】 ・日本と関連する諸国の歴史については、当該国の歴史から見た日本などにも着目させ、世界の歴史における日本の位置付けを明確にすること。【近現代史】</p>	

高等学校学習指導要領「日本史A」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」の対応関係について

高等学校学習指導要領「日本史A」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)
目標について	
<p>(教科目標) ・我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。</p> <p>(科目目標) ・我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>	<p>1. 「人々の経験と行動」、「物理的、経済的、社会的環境」、「社会制度や文化的慣習の発展とその歴史」について、体系的かつ批判的な学習を奨励する。</p> <p>2. 個人と社会の性質や活動についての理論、概念、議論を認識して、それらを批判的に分析、評価する力を育む。</p> <p>4. 学ぶということは自分たちが属する社会の文化と他の社会の文化の双方に関連するものであるという理解を促す。</p> <p>5. 人々の態度や意見は多様であり、社会の研究にあたってはその多様性を受け入れる必要があるという理解を育む。</p> <p>7. 過去に対する理解と、過去への飽くなき興味を育む。</p> <p>8. 多数のものの見方に触れて、歴史的な概念、問題、出来事、発展の複雑さに価値を認めるよう奨励する。</p> <p>10. 学問領域としての歴史に対する理解を育み、年代や前後関係の感覚をはじめとする歴史的な意識を育て、歴史に対する異なる視点の理解を育む。</p> <p>12. 過去を考察することにより、自分自身と現代の社会に対する理解を深める。</p>

内容について		
	SL, HL共通項目	HL選択項目
(1) 私たちの時代と歴史	「歴史」の学習 歴史と国際的な視野	
(2) 近代の日本と世界 ア 近代国家の形成と国際関係の推移 イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 ウ 近代の追究	指定学習項目3: 世界規模の戦争への動き 事例研究1: 東アジアにおける日本の拡張政策(1931～1941年) ※1931～1941年以外の部分は該当なし	HL選択項目3: アジアとオセアニアの歴史 9: 東アジアの初期の近代化と帝国の衰退(1860～1912年) 11: 日本(1912～1990年) ※HL選択項目は3項目選択する必要がある
(3) 現代の日本と世界 ア 現代日本の政治と国際社会 イ 経済の発展と国民生活の変化 ウ 現代からの探究		

内容の取扱いについて(概要)	
<p>・我が国の近現代の歴史の展開について国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させること【全体】。</p> <p>・目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること【全体】。</p> <p>・年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること【全体】。</p> <p>・国民生活や文化の動向については、地域社会の様子などと関連付けるとともに、衣食住や風習・信仰などの生活文化についても扱うようにすること【全体】。</p> <p>・客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くようにするとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成するようにする。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識させる【全体】。</p> <p>・近代、現代などの時代区分の持つ意味、近現代の歴史の考察に有効な諸資料についても扱うこと【(1)】。</p> <p>・資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を高めること【(2)ウ、(3)ウ】。</p>	<p>ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ DPの「歴史」で使用する主要概念の詳細 変化／連続／原因／結果／重要性／視点</p> <p>スキル 例1: 歴史的根拠の収集と分類 例2: 歴史的根拠の評価 例3: 歴史上の過程が人間の経験や活動や動機とどのような関係にあるかについての認識と理解 例4: 歴史的な思考や情報の整理と表現</p> <p>教師用参考資料「DP 歴史 指導の方法」より 学習の方法 DPの「歴史」は、DPの他のすべてのコースやIBのすべてのコースと同様、「学習の方法」の5つの主要スキル(思考スキル、コミュニケーションスキル、社会性スキル、リサーチスキル、自己管理スキル)を高めることに重点を置いています。</p> <p>指導の方法 DPの「歴史」は、DPの他のすべてのコースやIBのすべてのコースと同様、IBの教育における重要な価値観と原則を示した6つの「指導の方法」(探究を基本とした指導、概念に重点を置く指導、「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導、効果的なチームワークと協働に基づく指導、すべての生徒のニーズに応じて差別化した指導、評価の情報に基づく指導)によって支えられています。</p>

「日本史A」と「歴史」SLの間には、内容の大宗において対応関係が認められず、対応関係があるとみなすことはできない。  
「日本史A」と「歴史」HLの間には対応関係があるといえるが、目標及び内容の取扱いについて、対応すべき事項がある。

学習指導要領との対応関係の確保のため国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的事項・留意事項	
標準レベル(SL)	上級レベル(HL)
<p>※学習指導要領の内容について、ほとんどすべての事項を補足的に取り扱う必要があることから、対応関係ありとみなすことはできない。</p>	<p>【目標】 ・教科目標及び科目目標における「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」という部分については、学習指導要領解説に詳説されているとおり、「自らが国際社会の形成者であること、また、自らがよって立つ平和で民主的な国家・社会を維持・発展させ」という趣旨をふまえつつ、生徒の多様性にも配慮しながら、当該目標を達成できるような授業を実施するよう留意すること。</p> <p>【内容】 特になし ※「HL選択項目3: アジアとオセアニアの歴史」から以下の項目を選択した場合のみ。 9: 東アジア初期の近代化と帝国の衰退(1860～1912年) 11: 日本(1912～1990年)</p> <p>【内容の取扱い】 ・我が国の近現代の歴史の展開について国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させることについては、IBの教育における重要な価値観と原則を示した6つの「指導の方法」の一つ、「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導を通じて実現するよう留意すること。 ・歴史研究(内部評価)は、「内部評価は授業と一体を成す要素であり(中略)、筆記試験でのように時間の制限やその他の制約に左右されることなく、それぞれの興味を追い求めつつ、知識とスキルの活用を示すことができるものであることと、学習指導要領(2)ウ及び(3)ウの内容の取扱いにおいて「資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を高めること」とあり、これらが国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」で扱う概念やスキルに対応することを踏まえて実施すること。</p>

高等学校学習指導要領「日本史B」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」の対応関係について

高等学校学習指導要領「日本史B」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)	
<b>目標について</b>		
<p>(教科目標) ・我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。</p> <p>(科目目標) ・我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>	<p>1. 「人々の経験と行動」、「物理的、経済的、社会的環境」、「社会制度や文化的慣習の発展とその歴史」について、体系的かつ批判的な学習を奨励する。</p> <p>2. 個人と社会の性質や活動についての理論、概念、議論を認識して、それらを批判的に分析、評価する力を育む。</p> <p>4. 学ぶということは自分たちが属する社会の文化と他の社会の文化の双方に関連するものであるという理解を促す。</p> <p>5. 人々の態度や意見は多様であり、社会の研究にあたってはその多様性を受け入れる必要があるという理解を育む。</p> <p>7. 過去に対する理解と、過去への飽くなき興味を育む。</p> <p>8. 多数のものの見方に触れて、歴史的な概念、問題、出来事、発展の複雑さに価値を認めるよう奨励する。</p> <p>10. 学問領域としての歴史に対する理解を育み、年代や前後関係の感覚をはじめとする歴史的な意識を育て、歴史に対する異なる視点の理解を育む。</p> <p>12. 過去を考察することにより、自分自身と現代の社会に対する理解を深める。</p>	
<b>内容について</b>		
	SL, HL共通項目	HL選択項目
(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料 イ 日本文化の黎明と古代国家の形成 ウ 古代国家の推移と社会の変化	該当なし	
(2) 中世の日本と東アジア ア 歴史の解釈 イ 中世国家の形成 ウ 中世社会の展開	該当なし HL選択項目3: アジアとオセアニアの歴史 2: 日本の武家時代(1180～1333年) ※鎌倉幕府崩壊後～戦国時代相当部分は含まれない	
(3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明 イ 近世国家の形成 ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容	該当なし HL選択項目3: アジアとオセアニアの歴史 7: 伝統的な東アジア社会への挑戦(1700～1868年) ※織豊政権～江戸幕府前期相当部分は含まれない	
(4) 近代日本の形成と世界 ア 明治維新と立憲体制の成立 イ 国際関係の推移と立憲国家の展開 ウ 近代産業の発展と近代文化	該当なし HL選択項目3: アジアとオセアニアの歴史 9: 東アジアの初期の近代化と帝国の衰退(1860～1912年)	
(5) 両世界大戦期の日本と世界 ア 政党政治の発展と大衆社会の形成 イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 ウ 第二次世界大戦と日本	指定学習項目3: 世界規模の戦争への動き 事例研究1: 東アジアにおける日本の拡張政策(1931～1941年) ※1931～41年以外は該当なし HL選択項目3: アジアとオセアニアの歴史 11: 日本(1912～1990年) ※HL選択項目は3項目選択する必要があるが、上記に示した項目を選択することで学習指導要領に示された内容を履修できる。	
(6) 現代の日本と世界 ア 現代日本の政治と国際社会 イ 経済の発展と国民生活の変化 ウ 歴史の論述	該当なし	
<b>内容の取扱いについて(概要)</b>		
<p>・我が国の歴史と文化について各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させること【全体】。</p> <p>・目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること。その際、各時代の特色を総合的に考察する学習及び前後の時代を比較してその移り変わりを考察する学習それぞれの充実を図ること【全体】。</p> <p>・年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること【全体】。</p> <p>・文化に関する指導に当たっては、各時代の文化とそれを生み出した時代的背景との関連、外来の文化などとの接触や交流による文化の変容や発展の過程などに着目させ、我が国の伝統と文化の特色とそれを形成した様々な要因を総合的に考察させるようにすること。衣食住や風習・信仰などの生活文化についても、時代の特色や地域社会の様子などと関連付け、民俗学や考古学などの成果の活用を図りながら扱うようにすること【全体】。</p> <p>・地域社会の歴史と文化について扱うようにするとともに、祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすること【全体】。</p> <p>・資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を段階的に高めていくこと。様々な資料の特性に着目させ複数の資料の活用を図って、資料に対する批判的な見方を養うとともに、因果関係を考察させたり解釈の多様性に気付かせたりすること【(1)ア、(2)ア、(3)ア、(6)ウ】。</p> <p>・近現代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くようにするとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成するようにする。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識させる【(4)、(5)、(6)】。</p>	<p>「DP歴史」指導の手引きより ディプロマプログラム「歴史」の指導と学習のアプローチ DPの「歴史」で使用する主要概念の詳細 変化／連続／原因／結果／重要性／視点</p> <p>スキル 例1: 歴史的根拠の収集と分類 例2: 歴史的根拠の評価 例3: 歴史上の過程が人間の経験や活動や動機とどのような関係にあるかについての認識と理解 例4: 歴史的な思考や情報の整理と表現</p> <p>教師用参考資料「DP歴史」指導の方法より 学習の方法 DPの「歴史」は、DPの他のすべてのコースやIBのすべてのコースと同様、「学習の方法」の5つの主要スキル(思考スキル、コミュニケーションスキル、社会性スキル、リサーチスキル、自己管理スキル)を高めることに重点を置いています。</p> <p>指導の方法 DPの「歴史」は、DPの他のすべてのコースやIBのすべてのコースと同様、IBの教育における重要な価値観と原則を示した6つの「指導の方法」(探究を基本とした指導、概念に重点を置く指導、「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導、効果的なチームワークと協働に基づく指導、すべての生徒のニーズに応じて差別化した指導、評価の情報に基づく指導)によって支えられています。</p>	

「日本史B」と「歴史」SLの間には、内容の大宗において対応関係が認められず、対応関係があるとみなすことはできない。「日本史B」と「歴史」HLの間には対応関係があるといえるが、目標、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき事項がある。

学習指導要領との対応関係の担保のため国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的事項・留意事項	
標準レベル(SL)	上級レベル(HL)
<p>※学習指導要領の内容について、ほとんどすべての事項を補足的に取り扱う必要があることから、対応関係ありとみなすことはできない。</p>	<p>【目標】 ・教科目標及び科目目標における「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」という部分については、学習指導要領解説に詳説されているとおり、「自らが国際社会の形成者であること、また、自らがよって立つ平和で民主的な国家・社会を維持・発展させよう」という趣旨をふまえつつ、生徒の多様性にも配慮しながら、当該目標を達成できるような授業を実施するよう留意すること。</p> <p>【内容】 ・学習指導要領との対応関係を求める場合、追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。 (1) 原始・古代の日本と東アジア (2) 中世の日本と東アジア(うち、鎌倉幕府崩壊後～室町時代)<sup>※1,2</sup> (3) 近世の日本と世界(うち、織豊政権～江戸幕府前期)<sup>※1,3</sup> (4) 近代日本の形成と世界<sup>※1</sup> (5) 両世界大戦期の日本と世界<sup>※1</sup> (6) 現代の日本と世界<sup>※1</sup> ※1 HL選択項目で扱わなかった項目に相当する内容は、全て取り扱うこと。 ※2 HL選択項目で2を選択した場合、括弧内の部分を追加的に取り扱うこと。 ※3 HL選択項目で7を選択した場合、括弧内の部分を追加的に取り扱うこと。</p> <p>※上記の項目を補足的に取り扱うことで学習指導要領との対応関係が担保できるのは、「HL選択項目3: アジアとオセアニアの歴史」から以下のうち3項目を選択した場合のみ。 2: 日本の武家時代(1180～1333年) 7: 伝統的な東アジア社会への挑戦(1700～1868年) 9: 東アジアの初期の近代化と帝国の衰退(1860～1912年) 11: 日本(1912～1990年)</p> <p>【内容の取扱い】 ・「地域社会の歴史と文化について扱うようにするとともに、祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすること」については、IBの教育における重要な価値観と原則を示した6つの「指導の方法」の一つ、「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導を通じて実現するよう留意すること。また、歴史研究(内部評価)で地域社会の研究を行わなかった場合は、別の形で「ローカル」と「グローバル」の両方のレベルで文脈化した指導を行う等、地域社会についての歴史と文化について適切に取り扱うこと。 ・歴史研究(内部評価)は、「内部評価は授業と一体を成す要素であり(中略)、筆記試験のように時間の制限やその他の制約に左右されることなく、それぞれの興味を追い求めつつ、知識とスキルの活用を示すことができる」とあり、学習指導要領(1)ウ、(2)ウ、(3)ウ、(6)ウの内容の取扱いにおいて「資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を段階的に高めていくこと。様々な資料の特性に着目させ複数の資料の活用を図って、資料に対する批判的な見方を養うとともに、因果関係を考察させたり解釈の多様性に気付かせたりすること」とあり、これらが国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「歴史」で扱う概念やスキルに対応することを踏まえて実施すること。</p>

高等学校学習指導要領「地理A」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ジオグラフィー」の対応関係について

高等学校学習指導要領「地理A」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ジオグラフィー」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)
<b>目標について</b>	
<p>(教科目標) ・我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。</p> <p>(科目目標) ・現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>	<p>1. 「人々の経験と行動」、「物理的、経済的、社会的環境」、「社会制度や文化的慣習の発展とその歴史」について、体系的かつ批判的な学習を奨励する。</p> <p>2. 「個人と社会」の性質や活動についての理論、概念、議論を認識して、それらを批判的に分析、評価する力を育む。</p> <p>4. 学ぶということは自分たちが属する社会の文化と他の社会の文化の双方に関連するものであるという理解を促す。</p> <p>5. 人々の態度や意見は多様であり、社会の研究にあたってはその多様性を受け入れる必要があるという理解を育む。</p> <p>1. 人、場所、空間、環境の間で生じるさまざまなスケールの相互関係についての理解を深める。</p> <p>2. 地理的な問題の結びつきという文脈に照らして、批判的な認識を育み、複雑な思考を考察する。これには、以下のことが含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 地理的な問題、すなわち解決するのが難しい社会的・文化的問題が、人間の性質や物理的な性質に起因する強力なプロセスによってどのように形成されているかについての理解を深める。</li> <li>— これらの問題をどうすれば解決できるかについての見解を形成するため、多様な地理的知識を統合する。</li> </ul>
<b>内容について</b>	
<p>(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 ア 地球儀や地図からとらえる現代世界</p>	<p>地理的スキル(スキル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上のさまざまな要素の場所を見つけて区別する</li> <li>・表、グラフ、図、地図資料、画像を解釈して分析し、必要に応じて作成する</li> <li>・データや情報をリサーチして処理し、解釈する</li> <li>・関連性の高い地理情報を収集し、選択する</li> <li>・地理情報の文献を評価する</li> </ul>
<p>イ 世界の生活・文化の多様性</p>	<p>該当なし</p>
<p>ウ 地球的課題の地理的考察</p>	<p>パート1※</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選択項目A: 淡水</li> <li>選択項目B: 海洋と海岸線</li> <li>選択項目C: 極限環境</li> <li>選択項目F: 食料と健康</li> <li>選択項目G: 都市環境</li> </ul> <p>※SLは2つ、HLは3つの選択項目を履修。</p> <p>パート2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元1: 人口の変化</li> <li>単元2: 世界の気候—脆弱性とレジリエンス</li> <li>単元3: グローバルな資源の消費と安全保障</li> </ul>
<p>(2) 生活圏の諸課題の地理的考察 ア 日常生活と結びついた地図</p>	<p>地理的スキル(スキル)【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上のさまざまな要素の場所を見つけて区別する</li> <li>・表、グラフ、図、地図資料、画像を解釈して分析し、必要に応じて作成する</li> <li>・データや情報をリサーチして処理し、解釈する</li> <li>・関連性の高い地理情報を収集し、選択する</li> <li>・地理情報の文献を評価する</li> </ul>
<p>イ 自然環境と防災</p>	<p>該当なし</p>
<p>ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査</p>	<p>内部評価(フィールドワーク)</p>
<b>内容の取扱いについて(概要)</b>	
<p>・地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的スキルを身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用するとともに、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、情報通信ネットワークや地理情報システムなどの活用を工夫すること【全体】。</p> <p>・地図の読図や作図などを主とした作業的、体験的な学習を取り入れるとともに、各項目に関連付けて地理的スキルが身に付くよう工夫すること【(2)全体】。</p> <p>・日常生活の中でみられる様々な地図を取り上げ、目的や用途に適した地図表現の工夫などについて理解させ、日常生活と結び付いた地図の役割とその有用性について認識させるよう工夫すること【(2)ア】。</p> <p>・学習過程で政治、経済、生物、地学的な事象なども必要に応じて扱うことができるが、それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とすること【全体】。</p> <p>・国家間の結びつきについては、世界の国家群、貿易、交通・通信、観光の現状と動向に関する諸事象を様々な主題図などを基にとらえさせ、地理情報の活用する方法が身に付くよう工夫すること【(1)ア】。</p> <p>・地球的課題ごとに世界を広く大観する学習と具体例を通して考察する学習を組み合わせることで扱うこと。環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題は、それぞれ相互に関連し合っていることに留意して取扱いを工夫すること【(1)ウ】。</p> <p>・各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること【全体】。日本の位置と領域については、世界的視野から日本の位置をとらえるとともに、日本の領域をめぐる問題にも触れること【(1)ア】。</p> <p>・世界諸地域の生活・文化について世界を広く大観する学習と事例地域を通して考察する学習を組み合わせることで扱うこと。その際、生活と宗教のかかわりなどについて考察させるとともに、日本との共通性や異質性に着目させ、異なる習慣や価値観などをもっている人々と共存していくことの意義に気付かせること【(1)イ】。</p> <p>・日本では様々な自然災害が多発することから、早くから自然災害への対応に努めてきたことなどを具体例を通して取り扱うこと【(2)イ】。</p> <p>・生徒の特性や学校所在地の事情等を考慮し、地域調査を実施し、その方法が身に付くよう工夫すること。その際、これまでの学習成果を活用すること【(2)ウ】。</p>	<p>地理的スキル(スキル)</p> <p>ツールとして地理情報システム(GIS)を使う能力は、以下に挙げたスキルの多くを超越する貴重な地理的スキルとみなされています。GISが使用でき、その実用性がある場合は、使用することが奨励されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上のさまざまな要素の場所を見つけて区別する</li> <li>・表、グラフ、図、地図資料、画像を解釈して分析し、必要に応じて作成する</li> <li>・統計学的な計算を行って、パターンを示し、情報を要約する</li> </ul> <p>「地理」の学習</p> <p>「個人と社会」の科目のなかで、「地理」は空間を扱うという特徴があり、「社会科学」や「ヒューマンサイエンス(人間科学)」と「自然科学」の間に位置づけられます。DPの「地理」では、自然地理学、環境地理学、人文地理学を統合して、社会経済的な方法論と科学的な方法論の両方を生徒が習得できるよう促していきます。「地理」の独自の位置づけを利用して、関連する概念や考え方を幅広い学問領域から考察します。</p> <p>「地理」の「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(シラバスの構成)</p> <p>トピックとサブトピックの多くは互いに関連しあっているため、包括的でホリスティックなアプローチをとるのがよいでしょう。例えば、ある1つのケーススタディーを使って複数のトピックまたはサブトピックを学習することができるかもしれません。</p>

「地理A」と「ジオグラフィー」の間には対応関係があるといえるが、目標、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき事項がある。

学習指導要領との対応関係の確保のため国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的・留意事項(SL, HL共通)

<p><b>【目標】</b> ・教科目標及び科目目標における「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」という部分については、生徒の多様性にも配慮しながら、学習指導要領解説に詳説されているとおり、「自らが国際社会の形成者であること、また、自らによって立つ平和で民主的な国家・社会を維持・発展させる」という趣旨をふまえて、当該目標を達成できるような授業を実施するよう留意すること。</p> <p><b>【内容】</b> 学習指導要領との対応関係を求める場合に追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。 (1)イ 世界の生活・文化の多様性 (2)イ 自然環境と防災</p> <p><b>【内容の取扱い】</b> ・各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させ、また、日本の位置と領域については、世界的視野から日本の位置をとらえるとともに、日本の領域をめぐる問題にも触れるよう留意すること。その際、IBの6つの教育原理の一つに「地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導」があることが参考となり得る。</p> <p>・内部評価(フィールドワーク)の実施に際しては、生徒の特性や学校所在地の事情等を考慮すること。</p>
--

高等学校学習指導要領「地理B」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ジオグラフィー」の対応関係について

高等学校学習指導要領「地理B」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ジオグラフィー」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)
<b>目標について</b>	
<p>(教科目標) ・我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。</p> <p>(科目目標) ・現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>	<p>1. 「人々の経験と行動」、「物理的、経済的、社会的環境」、「社会制度や文化的慣習の発展とその歴史」について、体系的かつ批判的な学習を奨励する。</p> <p>2. 「個人と社会」の性質や活動についての理論、概念、議論を認識して、それらを批判的に分析、評価する力を育む。</p> <p>4. 学ぶということは自分たちが属する社会の文化と他の社会の文化の双方に関連するものであるという理解を促す。</p> <p>5. 人々の態度や意見は多様であり、社会の研究にあたってはその多様性を受け入れる必要があるという理解を育む。</p> <p>1. 人、場所、空間、環境の間で生じるさまざまなスケールの相互関係についての理解を深める。</p> <p>2. 地理的な問題の結びつきという文脈に照らして、批判的な認識を育み、複雑な思考を考察する。これには、以下のことが含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 地理的な問題、すなわち解決するのが難しい社会的・文化的問題が、人間の性質や物理的な性質に起因する強力なプロセスによってどのように形成されているかについての理解を深める。</li> <li>— これらの問題をどうすれば解決できるかについての見解を形成するため、多様な地理的知識を統合する。</li> </ul>
<b>内容について (SL, HL共通項目)</b>	
<p>(1) 様々な地図と地理的技能 ア 地理情報と地図 イ 地図の活用と地域調査</p>	<p>地理的技能(スキル) ・地球上のさまざまな要素の場所を見つけて区別する ・表、グラフ、図、地図資料、画像を解釈して分析し、必要に応じて作成する ・データや情報をリサーチして処理し、解釈する ・関連性の高い地理情報を収集し、選択する ・地理情報の文献を評価する</p> <p>内部評価(フィールドワーク)</p>
<p>(2) 現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境 イ 資源、産業 ウ 人口、都市・村落</p>	<p>パート1※ 選択項目A: 淡水 選択項目B: 海洋と海岸線 選択項目C: 極限環境 選択項目F: 食料と健康 選択項目G: 都市環境 ※SLは2つ、HLは3つの選択項目を履修。</p> <p>パート2 単元1: 人口の変化 単元2: 世界の気候—脆弱性とレジリエンス 単元3: グローバルな資源の消費と安全保障</p>
<p>エ 生活文化、民族・宗教</p> <p>(3) 現代世界の地誌的考察 ア 現代世界の地域区分 イ 現代世界の諸地域 ウ 現代世界と日本</p>	<p>該当なし</p>
<b>内容の取扱いについて(概要)</b>	
<p>・地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用するとともに、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、情報通信ネットワークや地理情報システムなどの活用を工夫すること。地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。学習過程で政治、経済、生物、地学的な事象なども必要に応じて扱うことができるが、それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とすること【全体】。</p> <p>・地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献などの地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的、体験的な学習を取り入れるとともに、各項目に関連付けて地理的技能が身につくよう工夫すること【(1)全体】。</p> <p>・地理的認識を深める上で地図を活用することが大切であることを理解させるとともに、地図に関する基礎的・基本的な知識や技能を習得することができるよう工夫すること【(1)ア】。</p> <p>・分析、考察の過程を重視し、現代世界を系統地理的にとらえる視点や考察方法が身に付くよう工夫すること【(2)全体】。</p>	<p>「地理」の学習 「個人と社会」の科目のなかで、「地理」は空間を扱うという特徴があり、「社会科学」や「ヒューマンサイエンス(人間科学)」と「自然科学」の間に位置づけられます。DPの「地理」では、自然地理学、環境地理学、人文地理学を統合して、社会経済的な方法論と科学的な方法論の両方を生徒が習得できるよう促していきます。「地理」の独自の位置づけを利用して、関連する概念や考え方を幅広い学問領域から考察します。</p> <p>「地理」の「指導のアプローチ」と「学習のアプローチ」(シラバスの構成) トピックとサブトピックの多くは互いに関連しあっているため、包括的でホリスティックなアプローチをとるのがよいでしょう。例えば、ある1つのケーススタディーを使って複数のトピックまたはサブトピックを学習することができるかもしれません。</p> <p>地理的技能(スキル) ツールとして地理情報システム(GIS)を使う能力は、以下に挙げたスキルの多くを超越する貴重な地理的技能とみなされています。GISが使用でき、その実用性がある場合は、使用することが奨励されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上のさまざまな要素の場所を見つけて区別する</li> <li>・表、グラフ、図、地図資料、画像を解釈して分析し、必要に応じて作成する</li> <li>・統計学的な計算を行って、パターンを示し、情報を要約する</li> <li>・データや情報をリサーチして処理し、解釈する</li> <li>・資料を作成する(エッセイ、レポート、調査結果など)</li> </ul>
<p>・各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること【全体】。</p> <p>・生徒の特性や学校所在地の事情等を考慮し、地域調査を実施し、その方法が身につくよう工夫すること【(1)イ】。</p> <p>・領土問題の現状や動向を扱う際に日本の領土問題にも触れること【(2)エ】。</p> <p>・内容の(1)及び(2)の学習成果を活用するよう工夫すること【(3)全体】。</p> <p>・現代世界が自然、政治、経済、文化などの指標によって様々な地域区分できていることに着目させ、それらを比較対照させることによって、地域概念、地域区分の意義などを理解させるようにすること【(3)ア】。</p> <p>・アで学習した地域区分を踏まえるとともに、様々な規模の地域を世界全体から偏りなく取り上げるようにすること。また、取り上げた地域の多様な事象を項目ごとに整理して考察する地誌、取り上げた地域の特色ある事象と他の事象を有機的に関連付けて考察する地誌、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する地誌の考察方法を用いて学習できるよう工夫すること【(3)イ】。</p> <p>・この科目のまとめとして位置付けること【(3)ウ】。</p>	

「地理B」と「ジオグラフィー」の間には対応関係があるといえるが、目標、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき事項がある。

学習指導要領との対応関係の担保のため国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的・留意事項 (SL, HL共通)

<p><b>【目標】</b> ・教科目標及び科目目標における「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」という部分については、生徒の多様性にも配慮しながら、学習指導要領解説に詳説されているとおり、「自らが国際社会の形成者であること、また、自らがよって立つ平和で民主的な国家・社会を維持・発展させ」という趣旨をふまえて、当該目標を達成できるような授業を実施するよう留意すること。</p> <p><b>【内容】</b> 学習指導要領との対応関係を求める場合に追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。 (2)イ 資源、産業※ エ 生活文化、民族・宗教 (3)現代世界の地誌的考察(全て) ※パート1の選択項目において「G: 都市環境」を選択しなかった場合は、工業・流通について追加的に取り扱う必要あり。「G: 都市環境」を選択した場合は、本項目において追加的に取り扱うべき内容は無い。</p> <p><b>【内容の取扱い】</b> ・各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させるよう留意すること。その際、IBの6つの教育原理の一つに「地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導」があることに留意すること。 ・内部評価(フィールドワーク)の実施に際しては、生徒の特性や学校所在地の事情等を考慮すること。</p>
---

高等学校学習指導要領「数学Ⅰ」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「マセマティックス:アナリシス・アンド・アプローチズ」の対応関係について

高等学校学習指導要領「数学Ⅰ」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム 「マセマティックス:アナリシス・アンド・アプローチズ」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)
<b>目標について</b>	
<p>(教科目標) ・数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。</p> <p>(科目目標) ・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>	<p>1. 数学への好奇心を育み、その楽しさを味わうとともに、数学のもつ優雅さや力を認識する 2. 数学の概念、原理、本質に対する理解を深める 3. さまざまな文脈において、明確、簡潔、かつ自信をもって、数学的な内容についてコミュニケーションをとることができるようになる 4. 論理的思考と創造的思考、問題解決に取り組む際の根気と粘り強さを養い、数学を使うことへの自信をもつ 5. 抽象化や一般化がもたらす力を利用し、その力を高める 12. 独立して、また協働を通じて、数学の理解を発展させる</p>
<b>内容について</b>	
<p>(1)数と式 ア 数と集合     (ア)実数     (イ)集合 イ 式     (ア)式の展開と因数分解     (イ)一次不等式</p>	<p>事前に学習すべきトピック 数と代数 ・数の体系: 自然数/整数/有理数/無理数/実数 ・整数・小数、および分数の加減乗除(計算の順序を含む) ・集合の概念と基本的な表記法 集合の演算: 和と共通部分 ・因数分解や展開などの代数式の操作 ・一次方程式および一次不等式の解法</p>
<p>(2)図形と計量 ア 三角比     (ア)鋭角の三角比     (イ)鈍角の三角比     (ウ)正弦定理・余弦定理 イ 図形の計量</p>	<p>トピック3: 幾何と三角法 SL3.2 正弦定理、余弦定理、三角形の面積の公式 SL3.5 単位円に基づく<math>\cos \theta</math>及び<math>\sin \theta</math>の定義、<math>\tan \theta</math>を<math>\sin \theta / \cos \theta</math>として定義</p>
<p>(3)二次関数 ア 二次関数とそのグラフ イ 二次関数の値の変化     (ア)二次関数の最大・最小     (イ)二次方程式・二次不等式</p>	<p>トピック2: 関数 SL2.4 グラフを特徴づける主な要素の特定(最大値と最小値) SL2.6 二次関数<math>f(x)=ax^2+bx+c</math>のグラフとy切片(0, c)。対称軸 SL2.7 二次方程式および二次不等式の解法</p>
<p>(4)データの分析 ア データの散らばり イ データの相関</p>	<p>トピック4: 確率と統計 SL4.3 ばらつきの尺度(四分位範囲、標準偏差、および分散) SL4.4 2変数データの線形相関、ピアソンの積率相関係数r 散布図</p>
<p>[課題学習]</p>	<p>内部評価</p>
<b>内容の取扱いについて(概要)</b>	
<p>・簡単な命題の証明も扱うものとする【(1)ア(イ)】。</p> <p>・<math>0^\circ</math>、<math>90^\circ</math>、<math>180^\circ</math>の三角比を扱うものとする【(2)ア(イ)】。</p> <p>・それぞれの内容との関連を踏まえ、学習効果を高めるよう適切な時期や場面に実施するとともに、実施に当たっては数学的活動を一層重視するものとする【課題学習】。</p>	<p>「数学:解析とアプローチ」の「指導のアプローチ」とATL 証明 数学の証明は、批判的思考を養ううえで欠かせない要素です。命題を証明するプロセスを体験することで、生徒は、数学の概念をより深く理解できるようになります。SLでは、単純な演繹法による証明を学習します。HL 発展項目(AHL: additional higher level)の内容では、背理法と帰納法のほか、反例を使って命題が正でないを示す方法も学習します。 ※数学的帰納法は数学Ⅱで取り扱う範囲である。</p> <p>SL3.5 <math>0</math>、<math>\pi/6</math>、<math>\pi/4</math>、<math>\pi/3</math>、<math>\pi/2</math>、およびこれらの倍数の各三角比の厳密値 ※弧度法は数学Ⅱで取り扱う範囲である。</p> <p>内部評価 時間配分 内部評価は「数学」のきわめて重要な要素です。SLでもHLでも、最終評価の20%を占めます。この配点比率を踏まえて、課題に取り組むのに必要な知識、スキル、理解を指導する時間、および課題を進めるために必要な時間を配分する必要があります。</p>

「数学Ⅰ」と「マセマティックス:アナリシス・アンド・アプローチズ」の間には対応関係があるといえるが、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき事項がある。

学習指導要領との対応関係の確保のため国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的事項・留意事項	
標準レベル(SL)	上級レベル(HL)
<p>【目標】 特になし</p> <p>【内容】 学習指導要領との対応関係を求める場合に追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。 (1)ア(イ)集合 (うち、必要条件、十分条件、対偶) (4)ア データの散らばり に相当する単元において、散らばりの指標として「四分位偏差」を取り扱うよう留意すること。</p> <p>【内容の取扱い】 ・簡単な命題の証明を取り扱うよう留意すること【(1)ア(イ)】。</p>	<p>【目標】 特になし</p> <p>【内容】 学習指導要領との対応関係を求める場合に追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。 (1)ア(イ)集合 (うち、必要条件、十分条件、対偶) (4)ア データの散らばり に相当する単元において、散らばりの指標として「四分位偏差」を取り扱うよう留意すること。</p> <p>【内容の取扱い】 ・簡単な命題の証明を取り扱うよう留意すること(ただし背理法、反例を利用した証明を除く)【(1)ア(イ)】。</p>

**高等学校学習指導要領「数学Ⅰ」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム  
「マセマティックス:アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」の対応関係について**

高等学校学習指導要領「数学Ⅰ」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム 「マセマティックス:アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)		
<b>目標について</b>			
<p>(教科目標) ・数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。</p> <p>(科目目標) ・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>	<p>1. 数学への好奇心を育み、その楽しさを味わうとともに、数学のもつ優雅さや力を認識する</p> <p>2. 数学の概念、原理、本質に対する理解を深める</p> <p>3. さまざまな文脈において、明確、簡潔、かつ自信をもって、数学的な内容についてコミュニケーションをとることができるようになる</p> <p>4. 論理的思考と創造的思考、問題解決に取り組む際の根気と粘り強さを養い、数学を使うことへの自信をもつ</p> <p>5. 抽象化や一般化がもたらす力を利用し、その力を高める</p> <p>12. 独立して、また協働を通じて、数学の理解を発展させる</p>		
<b>内容について</b>			
	<table border="1"> <tr> <th>SL, HL共通項目</th> <th>上級レベル(HL)</th> </tr> </table>	SL, HL共通項目	上級レベル(HL)
SL, HL共通項目	上級レベル(HL)		
<p>(1)数と式 ア 数と集合     (ア)実数     (イ)集合 イ 式     (ア)式の展開と因数分解     (イ)一次不等式</p>	<p>事前に学習すべきトピック 数と代数 ・数の体系:自然数/整数/有理数/無理数/実数 ・整数・小数、および分数の加減乗除(計算の順序を含む) ・集合の概念と基本的な表記法 集合の演算:和と共通部分 ・因数分解や展開などの代数式の操作 ・一次方程式および一次不等式の解法</p>		
<p>(2)図形と計量 ア 三角比     (ア)鋭角の三角比     (イ)鈍角の三角比     (ウ)正弦定理・余弦定理 イ 図形の計量</p>	<p>トピック3:幾何と三角法 SL3.2 正弦定理、余弦定理、三角形の面積の公式</p>		
<p>(3)二次関数 ア 二次関数とそのグラフ イ 二次関数の値の変化     (ア)二次関数の最大・最小     (イ)二次方程式・二次不等式</p>	<table border="1"> <tr> <td> <p>トピック2:関数 SL2.4 グラフを特徴づける主要素の特定(最大値と最小値) SL2.5 二次関数モデル <math>f(x)=ax^2+bx+c</math>の対称軸、頂点、零点と解、x軸及びy軸の切片</p> </td> <td> <p>事前に学習すべきトピック 数と代数 ・有理数係数の二次方程式および二次不等式の解法(HLのみ)</p> </td> </tr> </table>	<p>トピック2:関数 SL2.4 グラフを特徴づける主要素の特定(最大値と最小値) SL2.5 二次関数モデル <math>f(x)=ax^2+bx+c</math>の対称軸、頂点、零点と解、x軸及びy軸の切片</p>	<p>事前に学習すべきトピック 数と代数 ・有理数係数の二次方程式および二次不等式の解法(HLのみ)</p>
<p>トピック2:関数 SL2.4 グラフを特徴づける主要素の特定(最大値と最小値) SL2.5 二次関数モデル <math>f(x)=ax^2+bx+c</math>の対称軸、頂点、零点と解、x軸及びy軸の切片</p>	<p>事前に学習すべきトピック 数と代数 ・有理数係数の二次方程式および二次不等式の解法(HLのみ)</p>		
<p>(4)データの分析 ア データの散らばり イ データの相関</p>	<p>トピック4:確率と統計 SL4.3 ばらつきの尺度(四分位範囲、標準偏差、および分散) SL4.4 2変数データの線形相関、ピアソンの積率相関係数r 散布図/目視による平均の点を通る最良のあてはめ直線</p>		
[課題学習]	内部評価「数学探究」		
<b>内容の取扱いについて(概要)</b>			
・簡単な命題の証明も扱うものとする【(1)ア(イ)】。			
・ $0^\circ$ , $90^\circ$ , $180^\circ$ の三角比を扱うものとする【(2)ア(イ)】。	SL3.2 正弦定理: $a/\sin A=b/\sin B=c/\sin C$ 余弦定理: $c^2=a^2+b^2-2ab\cos C$ , $\cos C=(a^2+b^2-c^2)/2ab$ 三角形の面積の公式 $1/2ab\sin C$		
・それぞれの内容との関連を踏まえ、学習効果を高めるよう適切な時期や場面に実施するとともに、実施に当たっては数学的活動を一層重視するものとする【課題学習】。	<p>時間配分 内部評価は「数学」のきわめて重要な要素です。SLでもHLでも、最終評価の20%を占めます。この配点比率を踏まえて、課題に取り組むのに必要な知識、スキル、理解を指導する時間、および課題を進めるために必要な時間を配分する必要があります。</p>		

「数学Ⅰ」と「マセマティックス:アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション」の間には対応関係があるといえるが、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき事項がある。

学習指導要領との対応関係の確保のため国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的事項・留意事項	
標準レベル(SL)	上級レベル(HL)
<p><b>【目標】</b> 特になし</p> <p><b>【内容】</b> 学習指導要領との対応関係を求める場合に追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。 (1)ア(イ)集合 (うち、必要条件、十分条件、対偶、簡単な命題の証明) (3)イ(イ)二次方程式・二次不等式 (うち、二次不等式) (4)ア データの散らばり に相当する単元において、散らばりの指標として「四分位偏差」を取り扱うよう留意すること。</p> <p><b>【内容の取扱い】</b> ・簡単な命題の証明を取り扱うよう留意すること【(1)ア(イ)】。 ・<math>0^\circ</math> , <math>90^\circ</math> , <math>180^\circ</math> の三角比を取り扱うよう留意すること【(2)ア(イ)】。</p>	<p><b>【目標】</b> 特になし</p> <p><b>【内容】</b> 学習指導要領との対応関係を求める場合に追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。 (1)ア(イ)集合 (うち、必要条件、十分条件、対偶、簡単な命題の証明) (4)ア データの散らばり に相当する単元において、散らばりの指標として「四分位偏差」を取り扱うよう留意すること。</p> <p><b>【内容の取扱い】</b> ・簡単な命題の証明を取り扱うよう留意すること【(1)ア(イ)】。 ・<math>0^\circ</math> , <math>90^\circ</math> , <math>180^\circ</math> の三角比を取り扱うよう留意すること【(2)ア(イ)】。</p>

高等学校学習指導要領「音楽Ⅰ」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ミュージック」の対応関係について

高等学校学習指導要領「音楽Ⅰ」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ミュージック」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)
<b>目標について</b>	
<p>(教科目標) ・芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p> <p>(科目目標) ・音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。</p>	<p>1. 生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ 4. 時間、場所、および文化を超えた芸術の多様性を探究し、その価値を認める 5. 自信をもつて的確に考えを表現する 7. 個人的な学びにおいても協動的な学びにおいても、音楽を学ぶ者としての知識を深め、可能性を伸ばす</p> <p>「IBの学習者像」 思いやりのある人</p>
<b>内容について</b>	
<p>A 表現</p> <p>(1)歌唱 ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。 イ 曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。 ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。</p> <p>(2)器楽 ア 曲想を楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって演奏すること。 イ 楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。 ウ 様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏すること。</p> <p>(3)創作 ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって音楽をつくること。 イ 音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。 ウ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって変奏や編曲をすること。 エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して音楽をつくること。</p> <p>B 鑑賞 ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること。 イ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。 ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること。</p>	<p>・音楽的理解力(必修) ・創作研究※ ・ソロ演奏研究※ ・グループ演奏研究※ ※ SLはこれら3つのうち1つ選択して履修。HLは創作研究とソロ演奏研究が必修</p>
<p>エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること。</p>	<p>音楽コースの期間中、生徒たちは自分にとって馴染みのある音楽もそうでない音楽も、あらゆる時代、土地、文化のものを聞くよう促されるべきです。音楽コースでさまざまなことを学ぶ間、生徒には音楽の全体像に対する理解を深めるためのサポートが必要です。</p>

<b>内容の取扱いについて(概要)</b>	
<p>・生徒の特性等を考慮し、視唱と視奏及び読譜と記譜の指導を含めるものとする【A】。 ・即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成することを重視するとともに、作品を記録する方法を工夫させるものとする【A(3)】。 ・楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする【B】。</p>	<p>・音楽文化を研究、分析、比較、調査、対比する:生徒は、音楽的要素(形式や構成を含む)や文脈を扱う際に適切な音楽用語を用いる技術を身につけます。 ・即興演奏:即興演奏とは、動機づけられて即座に創作しながら演奏する音楽表現です。(中略)多様な音楽的要素を巧みに操作することで音楽の可能性に対する理解が深まります。 ・音楽的比較研究:生徒は、さまざまな音楽文化から生まれた曲の研究を通じて、2つの異なる音楽文化を背景にもつ2曲(またはそれ以上)の間に存在する音楽的関連性を探究、分析、考察するよう促されます。</p>
<p>・我が国の伝統的な歌唱及び和楽器を含めて扱うようにする。また、内容のBのエとの関連を図るよう配慮するものとする【A】。 ・地域や学校の実態等を考慮し、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽から幅広く扱うようにする【全て】。アジア地域の諸民族の音楽を含めて扱うようにする【B】。 ・音や音楽と生活や社会とかかわりを考えさせ、音環境への関心を高めるよう配慮するものとする【全て】。</p>	<p>「音楽」の学習 音楽は、人間や共同社会のアイデンティティとして、また表現手段としての機能を持ち、個人やコミュニティの社会的、文化的価値感を体現するものです。(中略)その多様性を通じて、音楽は絶えず変化し続ける世界のさまざまな扉を開き、我々に世界とのかかわりをもたせてくれます。</p>
<p>・音楽に関する知的財産権などについて配慮し、著作物等を尊重する態度の形成を図るようにする【全て】。</p>	<p>IB「学問的誠実性」</p>
<p>・中学校音楽科との関連を十分に考慮し、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、A及びB相互の関連を図るものとする【A, B】。</p>	

「音楽Ⅰ」と「ミュージック」の間には対応関係があるといえるが、内容及び内容の取扱いについて、対応すべき事項がある。

<b>学習指導要領との対応関係の担保のため国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的・留意事項</b>	
標準レベル(SL)	上級レベル(HL)
<p>【目標】 特になし</p> <p>【内容】 学習指導要領との対応関係を求める場合に追加的に取り扱うべき事項は以下のとおり。 ・創作研究またはソロ演奏研究／グループ演奏研究のうち選択しなかった方に相当する内容 ※ソロ演奏研究／グループ演奏研究を選択した場合、学習指導要領と対応させるためには、歌唱と器楽の両方を取り扱う必要があることに留意すること。</p> <p>【内容の取扱い】 ・中学校音楽科との関連を十分に考慮し、それぞれ特定の活動のみに偏らないよう留意すること。 ・「我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること」については、IBの「指導の方法」において、「地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導」が6つの主要な教育原理の一つに位置付けられていることを参考に、取扱いに留意すること。</p>	<p>【目標】 特になし</p> <p>【内容】 特になし ※学習指導要領と対応させるためには、ソロ演奏研究の項目において、歌唱と器楽の両方を取り扱う必要があることに留意すること。</p> <p>【内容の取扱い】 ・中学校音楽科との関連を十分に考慮し、それぞれ特定の活動のみに偏らないよう留意すること。 ・「我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること」については、IBの「指導の方法」において、「地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導」が6つの主要な教育原理の一つに位置付けられていることを参考に、取扱いに留意すること。</p>

高等学校学習指導要領「美術Ⅰ」と国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ヴィジュアル・アーツ」の対応関係について

高等学校学習指導要領「美術Ⅰ」	国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ヴィジュアル・アーツ」 (SL, HL共通項目, 対応部分を抜粋)																						
<b>目標について</b>																							
<p>(教科目標) 芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p> <p>(科目目標) 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。</p>	<p>1. 生涯にわたって芸術とのかかわりを楽しむ 4. 時間、場所、および文化を超えた芸術の多様性を探究し、その価値を認める 5. 自信をもって的確に考えを表現する 7. 個人および文化の文脈の影響を受けた作品を制作する 8. 視覚文化と表現手段についての知識をもった批判的な鑑賞者および制作者となる 9. 作品概念やアイデアを伝えるためのスキル、技法およびプロセスを培う</p> <p>IBの学習者像 思いやりのある人</p>																						
<b>内容について</b>																							
<p>A 表現</p> <p>(1) 絵画・彫刻 ア 感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。 イ 表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練ること。 ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 エ 表現方法を工夫し、主題を追求して表現すること。</p> <p>(2) デザイン ア 目的、機能、美しさなどを考えて主題を生成すること。 イ 表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練ること。 ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 エ 表現方法を工夫し、目的や計画を基に表現すること。</p> <p>(3) 映像メディア表現 ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。 イ 色光、視点、動きなどの映像表現の視覚的要素を工夫して表現の構想を練ること。 ウ 意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かすこと。 エ 表現方法や編集を工夫して表現すること。</p> <p>B 鑑賞 ア 美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めること。 イ 映像メディア表現の特質や表現の効果などを感じ取り、理解すること。 ウ 自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解を深めること。 エ 日本の美術の歴史や表現の特質、日本及び諸外国の美術文化について理解を深めること。</p>	<p>・SLの生徒は、最低限の要件として、下記の表の異なる列から選択した少なくとも2つの形式を用いた作品制作を経験しなければなりません。HLの生徒は、最低限の要件として、下記の表の異なる列から選択した少なくとも3つの形式を用いた作品制作を経験しなければなりません。</p> <table border="1" data-bbox="1087 623 1837 994"> <thead> <tr> <th>平面的形式</th> <th>立体的形式</th> <th>カメラやビデオ、電子機器、スクリーンを用いた形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・デッサン: 木炭、鉛筆、インク、コラージュなど ・絵画: アクリル、油彩、水彩、壁画など ・版画: 凸版、凹版、平板、シンコレなど ・グラフィック: イラスト、デザイン、劇画、絵コンテなど</td> <td>・彫刻: 木彫、石、ブロックなど ・彫像: 蝋、樹脂粘土など ・構成彫刻: アッサンブラージュ、プリコラージュ、木材、プラスチック、紙、ガラスなど ・鋳造: 石膏、蝋、ブロンズ、紙、プラスチック、ガラスなど ・陶芸: 手びねり、ろくろ、鋳込みなど ・デザイン設計: ファッション、建築模型、インテリア・デザイン、ジュエリーなど ・サイト・スペシフィック/エフェメラル: ランドアート、インスタレーション、パフォーマンス・アートなど ・テキスタイル: 織物、機織り、コンストラクティッド・テキスタイルなど</td> <td>・継続的なアート、連続性を使ったアート: ストップ・モーション、デジタル・アニメーション、ビデオ・アートなど ・レンズを使った表現手段: アナログ写真、デジタル写真、モニター・ビデオなど ・レンズを使わない表現手段: フォトグラム/レイヨグラフィ、舞台美術用写真、ピンホール・カメラ、青写真(日光写真)、ソルトプリントなど ・デジタル/スクリーン上のアート: ベクター画像、ソフトウェアで生成した絵画、デザイン、イラストなど</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1087 1009 1837 1587"> <thead> <tr> <th></th> <th>文脈に沿った美術</th> <th>美術の方法</th> <th>美術のコミュニケーション</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理論的実践</td> <td>生徒は芸術家の作品を異なる文化的文脈から考察し、比較します。生徒は自身および他者の作品に影響を与えている文脈について検討します。</td> <td>生徒は作品制作のためにさまざまな技法に目を向けます。生徒は異なる技法がなぜ、どのように発達してきたか、またその発展の過程を調査し、比較します。</td> <td>生徒は、視覚的および記述的手段を通じたコミュニケーションの方法を探究します。生徒は知識と理解を最も効果的に伝える方法について芸術的選択を行います。</td> </tr> <tr> <td>作品制作の実践</td> <td>研究と批判的思考、技法の実験の過程を通して、生徒は作品を制作します。生徒は特定の技法を自身が進める作品に応用します。</td> <td>生徒は多様な表現手段を用いて実験を行い、作品を制作するための技法を探究します。生徒は技能、技法、および表現手段によって特徴づけられる制作過程を通して作品概念を発展させます。</td> <td>生徒は振り返りと評価の過程を通して多数の作品を制作し、技能と表現手段と作品概念を総合して示します。</td> </tr> <tr> <td>キュレーションの実践</td> <td>生徒が見て体験した作品や展示に対する知識に基づいた鑑賞眼を養います。生徒は作品を制作し展示する際に自身の意図を説明できるようにします。</td> <td>生徒は自身の進行中の作品がどのように意味や目的を伝えるかを評価します。生徒は「展覧会」の本質について考察し、選択の過程と自身の作品が異なる受け手に与える潜在的な影響について考えます。</td> <td>生徒は展示用に完成作品を選択し発表します。生徒は複数の作品が互いにどのようにつながっているかを説明します。生徒は芸術的判断が発表全体にどのように影響するかについて議論します。</td> </tr> </tbody> </table>	平面的形式	立体的形式	カメラやビデオ、電子機器、スクリーンを用いた形式	・デッサン: 木炭、鉛筆、インク、コラージュなど ・絵画: アクリル、油彩、水彩、壁画など ・版画: 凸版、凹版、平板、シンコレなど ・グラフィック: イラスト、デザイン、劇画、絵コンテなど	・彫刻: 木彫、石、ブロックなど ・彫像: 蝋、樹脂粘土など ・構成彫刻: アッサンブラージュ、プリコラージュ、木材、プラスチック、紙、ガラスなど ・鋳造: 石膏、蝋、ブロンズ、紙、プラスチック、ガラスなど ・陶芸: 手びねり、ろくろ、鋳込みなど ・デザイン設計: ファッション、建築模型、インテリア・デザイン、ジュエリーなど ・サイト・スペシフィック/エフェメラル: ランドアート、インスタレーション、パフォーマンス・アートなど ・テキスタイル: 織物、機織り、コンストラクティッド・テキスタイルなど	・継続的なアート、連続性を使ったアート: ストップ・モーション、デジタル・アニメーション、ビデオ・アートなど ・レンズを使った表現手段: アナログ写真、デジタル写真、モニター・ビデオなど ・レンズを使わない表現手段: フォトグラム/レイヨグラフィ、舞台美術用写真、ピンホール・カメラ、青写真(日光写真)、ソルトプリントなど ・デジタル/スクリーン上のアート: ベクター画像、ソフトウェアで生成した絵画、デザイン、イラストなど		文脈に沿った美術	美術の方法	美術のコミュニケーション	理論的実践	生徒は芸術家の作品を異なる文化的文脈から考察し、比較します。生徒は自身および他者の作品に影響を与えている文脈について検討します。	生徒は作品制作のためにさまざまな技法に目を向けます。生徒は異なる技法がなぜ、どのように発達してきたか、またその発展の過程を調査し、比較します。	生徒は、視覚的および記述的手段を通じたコミュニケーションの方法を探究します。生徒は知識と理解を最も効果的に伝える方法について芸術的選択を行います。	作品制作の実践	研究と批判的思考、技法の実験の過程を通して、生徒は作品を制作します。生徒は特定の技法を自身が進める作品に応用します。	生徒は多様な表現手段を用いて実験を行い、作品を制作するための技法を探究します。生徒は技能、技法、および表現手段によって特徴づけられる制作過程を通して作品概念を発展させます。	生徒は振り返りと評価の過程を通して多数の作品を制作し、技能と表現手段と作品概念を総合して示します。	キュレーションの実践	生徒が見て体験した作品や展示に対する知識に基づいた鑑賞眼を養います。生徒は作品を制作し展示する際に自身の意図を説明できるようにします。	生徒は自身の進行中の作品がどのように意味や目的を伝えるかを評価します。生徒は「展覧会」の本質について考察し、選択の過程と自身の作品が異なる受け手に与える潜在的な影響について考えます。	生徒は展示用に完成作品を選択し発表します。生徒は複数の作品が互いにどのようにつながっているかを説明します。生徒は芸術的判断が発表全体にどのように影響するかについて議論します。
平面的形式	立体的形式	カメラやビデオ、電子機器、スクリーンを用いた形式																					
・デッサン: 木炭、鉛筆、インク、コラージュなど ・絵画: アクリル、油彩、水彩、壁画など ・版画: 凸版、凹版、平板、シンコレなど ・グラフィック: イラスト、デザイン、劇画、絵コンテなど	・彫刻: 木彫、石、ブロックなど ・彫像: 蝋、樹脂粘土など ・構成彫刻: アッサンブラージュ、プリコラージュ、木材、プラスチック、紙、ガラスなど ・鋳造: 石膏、蝋、ブロンズ、紙、プラスチック、ガラスなど ・陶芸: 手びねり、ろくろ、鋳込みなど ・デザイン設計: ファッション、建築模型、インテリア・デザイン、ジュエリーなど ・サイト・スペシフィック/エフェメラル: ランドアート、インスタレーション、パフォーマンス・アートなど ・テキスタイル: 織物、機織り、コンストラクティッド・テキスタイルなど	・継続的なアート、連続性を使ったアート: ストップ・モーション、デジタル・アニメーション、ビデオ・アートなど ・レンズを使った表現手段: アナログ写真、デジタル写真、モニター・ビデオなど ・レンズを使わない表現手段: フォトグラム/レイヨグラフィ、舞台美術用写真、ピンホール・カメラ、青写真(日光写真)、ソルトプリントなど ・デジタル/スクリーン上のアート: ベクター画像、ソフトウェアで生成した絵画、デザイン、イラストなど																					
	文脈に沿った美術	美術の方法	美術のコミュニケーション																				
理論的実践	生徒は芸術家の作品を異なる文化的文脈から考察し、比較します。生徒は自身および他者の作品に影響を与えている文脈について検討します。	生徒は作品制作のためにさまざまな技法に目を向けます。生徒は異なる技法がなぜ、どのように発達してきたか、またその発展の過程を調査し、比較します。	生徒は、視覚的および記述的手段を通じたコミュニケーションの方法を探究します。生徒は知識と理解を最も効果的に伝える方法について芸術的選択を行います。																				
作品制作の実践	研究と批判的思考、技法の実験の過程を通して、生徒は作品を制作します。生徒は特定の技法を自身が進める作品に応用します。	生徒は多様な表現手段を用いて実験を行い、作品を制作するための技法を探究します。生徒は技能、技法、および表現手段によって特徴づけられる制作過程を通して作品概念を発展させます。	生徒は振り返りと評価の過程を通して多数の作品を制作し、技能と表現手段と作品概念を総合して示します。																				
キュレーションの実践	生徒が見て体験した作品や展示に対する知識に基づいた鑑賞眼を養います。生徒は作品を制作し展示する際に自身の意図を説明できるようにします。	生徒は自身の進行中の作品がどのように意味や目的を伝えるかを評価します。生徒は「展覧会」の本質について考察し、選択の過程と自身の作品が異なる受け手に与える潜在的な影響について考えます。	生徒は展示用に完成作品を選択し発表します。生徒は複数の作品が互いにどのようにつながっているかを説明します。生徒は芸術的判断が発表全体にどのように影響するかについて議論します。																				
<b>内容の取扱いについて(概要)</b>																							
<p>・感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現と、目的や機能などを考えた表現の学習が調和的に行えるようにする【A】。</p>	<p>美術の方法 本コースの「美術の方法」領域では、生徒は作品制作にかかわるさまざまな過程を探究できます。そのため生徒には、作品制作に必要な技能と技法を培うと共に、自身が展開する芸術的実践を見つめ振り返る機会が与えられなければなりません。生徒は自身の好む作業方法や好みの表現手段、技法、制作過程を特定し、自身の長所や制作意図を自覚できるよう促される必要があります。</p>																						
<p>・スケッチやデッサンなどにより観察力、思考力、描写力などが十分高まるよう配慮するものとする【A】。</p>	<p>美術ジャーナル 美術コースの期間中、SLとHLの生徒は美術ジャーナルを継続することが求められています。これは2年間にわたる生徒による記録で、以下の事項の記録に活用します。(関係部分抜粋) ・作品制作の技能および技法の進歩 ・表現手段および技術を用いた実験 ・関連する美術ジャンルの文脈の中で、自分の作品を発展させていく過程の調査 ・直接観察したときの感想 ・探究および発展のための創造的なアイデア ・芸術の実践および作品制作の経験に対する自身の分析、判断</p>																						
<p>・作品について互いに批評し合う活動などを取り入れるようにする【B】。</p>	<p>理論的実践 ・クラス全体で特定作品の形式的特性を特定し議論する</p>																						
<p>・美術に関する知的財産権や肖像権などについて配慮し、自己や他者の著作物等を尊重する態度の形成を図るようにする【全体】。</p>	<p>IB「学問的誠実性」</p>																						
<p>・日本の美術も重視して扱うとともに、アジアの美術などについても扱うようにする【B】。 ・事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする【全体】。</p>																							

「美術Ⅰ」と「ヴィジュアル・アーツ」の間には対応関係があるといえるが、目標、内容及び内容の取扱いの観点から、対応すべき事項がある。

学習指導要領との対応関係の確保のため国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの実施にあたって対応すべき追加的事項・留意事項(SL, HL共通)
<p>【目標】 ・国際バカロレア・ディプロマ・プログラム「ヴィジュアル・アーツ」の履修を通じて、感性を高め、豊かな情操を養うという点に留意すること。その際、IBの10の学習者像が参考となり得る。</p> <p>【内容】 ・作品制作では、「美術Ⅰ」では、「A表現」の内容が「絵画・彫刻」、「デザイン」、「映像メディア表現」という分野で構成されていることから、作品制作では、「美術Ⅰ」の各分野と一般的に関連した内容で行うこと。なお、「絵画・彫刻」と関連する絵画や彫刻の作品制作は、絵画と彫刻を選択して扱う、又は一体的に扱うことができる。また、「デザイン」と「映像メディア表現」に関連する作品制作はいずれかを選択して扱うことができる。 ・作品制作にあたっては、自ら作品の主題を生成することに留意すること。</p> <p>【内容の取扱い】 ・作品の鑑賞にあたっては、日本の美術やアジアの美術の取扱いに留意すること。その際、IBの指導のアプローチとして「地域的な文脈とグローバルな文脈」が求められていることが参考となり得る。 ・事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導に留意すること。その際、「ディプロマ・プログラム(DP)」の「基準」「実践要綱」及び「要件」において、「理科」(グループ4)および「芸術」(グループ6)の科目の実施に必要な実験室と特別教室は、安全で効果的な学習環境であることとあることが参考となり得る。</p>